

直方ミニバスケットボールクラブだより

人は、多様な人、多様な交わりや関係性のなかで育つことで「人間力」が身につきます。



コロナ禍が常態化する日常生活は、学校生活はもとより、地域社会におけるあらゆるものを変えています。

バスケットクラブにおいても同様で、昨年から今年にかけて今日まで、子どもたちに大会（試合）を経験させてあげる機会をほぼ失っています。日々の練習内容や活動のありようについては、できる範囲で工夫を重ね、楽しさも喜びしさも含め、子どもたちと充実した時間を過ごしてはきています。日々、子どもたちの心身の成長・発達を実感してきています。しかし、子どもたちにとってのさらなる成長・発達を促すうえで、他チームとの交流試合は欠かせません。試合の勝ち負けではなく、交流することで互いに刺激し合い、学び合うことができるというのが大きなメリットです。ふだん目にするのでできないプレーに出会ったり、いろいろな選手と交流したりすることで、大変効果的に力をつけていくことができます。その機会を、今、失っているわけです。

学校でも、ふだんは教室で学ぶことが多いのですが、学習内容からして、これはぜひ現地で学ばせた方が効果的と思われるものについては、可能であれば校外に出て行って現地で学びます。またこの内容については、ぜひ当事者に直接話を聞く方が効果的と思われる場合、当事者との出会いの機会をつくって学ぶこともあります。これらは非常に教育効果の高いものになります。

学ぶことは、出会うこと、交流すること、つながることとも言えます。その過程で「気づき、考え、行動する」力を育んでいくことが可能になります。「一人学びでは、学びは深まらない、発展しない、定着しない」と言われます（基礎的なものは、一人学びの方が効果的な場合もあります）。一時的な点数向上にはつながっても、それだけでは生きてはたらく力とはなりにくい。点数学力だけを獲得しても、大学を卒業しても、人として大切なものを身に付けて育っていなければ、その後の大成にはつながらない。むしろ歪んだ高学力が、人生において大きなつまずきの原因となるケースさえありますね。「その大学を出ていてなんで...」「そんな社会的地位や立場にあってなんで...」「そこまでがんばってきてなんで...」と思わされるのがよくあります。

人は多様な人のなかで、多様な交わりのなかで、多様な関係性のなかで育つことがとても重要です。その環境で育つ過程で、人として大切な力を身につけていきます。学校や地域社会に身をおき学ぶことの意義はここにあります。

